

令和元年度秋田県総合政策審議会
第1回 人・ものの交流拡大部会
(議事要旨)

1 日時 令和元年5月16日(木) 15:15～17:00

2 場所 総庁402・403会議室

3 出席者(敬称略)

【人・ものの交流拡大部会委員】

佐野 元彦・・・秋田ノーザンハピネッツ株式会社 代表取締役会長

関口 久美子・・・株式会社トースト 常務取締役

日野 智・・・秋田大学大学院理工学研究科 准教授

渡邊 竜一・・・株式会社アジア・メディアプロモーション 代表取締役

【県】

観光文化スポーツ部 次長 恵比原 史

次長 奈良 聡

インバウンド推進統括監 益子 和秀

各課課長 ほか

4 部会長あいさつ

オリンピック・パラリンピックのチケットの予約が始まり、今年はラグビーのワールドカップが開催され、スポーツツーリズムが目に見えて盛り上がってきた。首都圏を中心に訪日観光客が多くなり、リピーターが増え、地方に目が向くことが予想される。秋田への波及効果がこれから出てくるものと思われる。元号が変わり、心機一転、いろいろな施策に取り組んでいきたいので、よろしくお願いしたい。

5 委員の自己紹介

6 議事

(1) 令和元年度総合政策審議会 人・ものの交流拡大部会の進め方について

□ 石黒観光戦略課長

(部会のスケジュール等について、部会資料－1により説明)

● 渡邊部会長

ただ今の説明に、質問、意見等はあるか。

(なし)

(2) 「第3期ふるさと秋田元気創造プラン」戦略4の推進に係る令和元年度当初予算の概要について

□ 石黒観光戦略課長

(令和元年度当初予算の概要等について、部会資料2-1により説明)

□ 高橋港湾空港課長

(国内外のクルーズ船誘致と受入環境の整備について、部会資料2-2により説明)

□ 佐藤道路課長

(交通ネットワークの整備について、部会資料2-2により説明)

● 渡邊部会長

これまでの説明について、ご意見・ご質問はあるか。資料2-1、2-2について、昨年議論した内容が反映されているかなどを含め、ご意見があればお聞かせ願いたい。

● 佐野委員

先日、NHK スペシャルのシリーズ人体の中で、DNA の突然変異により、他の人とは異なる特別な遺伝子を持っている人がいることが取り上げられていた。その遺伝子の持ち主を探し出すことによって、身体能力の高いスポーツ選手を発掘することができるのではないか。5 年後 10 年後には全国で一般的になることを、秋田県が先取りしてやるようなアイデアが必要ではないか。

● 渡邊部会長

10 連休はどういうお客様が来ていたのか教えてほしい。

● 関口委員

いつもの連休より海外の方が多く、アジア圏のみならず、ヨーロッパやアメリカ等の欧米の方が多いたことが、例年になく傾向であった。

桜をテーマとする春の旅行商品は、角館、弘前、北上を周遊するコースの人気の高い。今年は新たに角館も夜桜を見るツアーが催行されたが、夜の寒さへの対応や桜のライティングが弘前に比べて見劣りするなど、受入態勢が不十分のように思う。

「角館桜花灯り」などと銘打って夜桜に特化した演出ができれば、夜桜が人気になり、夜の観光客が増え、観光人口の分散が図られ、働き手不足の解消に繋がる。受入態勢整備と併せ、仙北市と協力して検討してほしい。

● 渡邊部会長

総合政策審議会の本会議の中で、当部会にも関係するキーワードがたくさん出てい

たと思うが、10 日間の連休の中で旅行された経験も含めて、日野委員からご意見をお願いしたい。

● 日野委員

10 連休はどこ施設も混雑していたが、警備や誘導等に、むしろ過重に対策をとっている施設が多く、私が行った施設ではほとんど混乱はなかった。先ほど人手不足の話があったが、今回は 10 日間なのでよかったが、さらに長くなった場合に対応できるのか今から対策を検討すべきだと思う。

また、資料 2－1 のまとめ方として、オリ・パラに向けた取組みと、オリ・パラを契機として誘客拡大等に繋げる取組みが仕分けされており、そういう視点は大事だと感じる。

● 渡邊部会長

京都はオーバーツーリズムと言われ、とにかくたくさんの観光客が来すぎているが、ターゲットを絞り込み、ある程度富裕層向けに商品を出していく、いわゆる差別化戦略を図らなければならない状況にある。

京都のようにたくさん観光客が来だすと、溢れ出て地方に目が向くようになる。その時に地方側が目の肥えた人たちに対して、受け皿を作らなければならなくなる。今回まとめていただいた資料は「戦略」と言っているが、「戦略」というのは元々「誰と戦うか」ということで、ターゲットをもう少し明確に見せた方がいい。例えば、どういう人を対象にするか、どこの国の人か、年齢層によっても全然違う。「どういう対象の方に」「秋田にある素材でどういう満足を得てもらうか」ということを考える必要がある。

では、議事（2）に関しては以上で、「議事（3）第 3 期ふるさと秋田元気創造プラン戦略 4 の推進に係る施策の提言について」に入らせていただく。本日を含め 3 回にわたり開催する部会を通じて、部会としての提言をまとめることにしている。この提言の作成を視野に入れ、事務局から説明いただいた施策の概要を踏まえながら、委員の皆様から観光・食・文化・スポーツ・道路・交通の各分野に関するご意見ご質問をいただきたいと思う。分野が非常に広いが、思いついた限りで結構なので、ご意見をいただきたい。

（3）「第 3 期ふるさと秋田元気創造プラン」戦略 4 の推進に係る施策の提言について

● 佐野委員

県内の宿泊施設のインバウンドの受入れについて、最低限の基盤が整備されていることがポイントになる。Wi-Fi やトイレ（洋式水洗・清潔）はもちろん、クレジットカードや QR コード決済等のキャッシュレス決済についても対応が必要であり、導入に際して行政等がサポートすべきである。

また、言葉の問題については、お互いに言葉が通じない中で、身振りや手振りを通じて分かってもらう「苦労した思い出」と、正確な意思疎通が必要なところでは翻訳

機を使うなど、すべてを整えるのではなく、きちんと整えるものと不自由さの組合せによる演出が非常に重要だと思う。そういう取組を提供している方々の体験談等をモデルケースとして打ち出すことも検討してはどうか。

二つ目は、「夜の観光」の充実について申し上げる。欧米人は、日中はスキー等のアクティビティを楽しみ、夜はドレスアップをして洒落た大人の時間を過ごしたいという希望があるようだ。県内の観光地でも、日中はスキーや見物、その他のアクティビティ等を体験し、夜は飲食を含めて夜の観光を楽しむことができる状況を作る必要がある。ただ、受け入れるお店側にとっては、お客さんが来店するかどうかで重要で、例えば、ツアー状況をお店に提供し、ツアーが来た時には立ち寄れるように協力してもらうことが必要だと思う。

クルーズ船については、寄港地が決まっているので、例えば、前の寄港地が小樽であれば、小樽を離れる時に次の寄港地である秋田の PR を行い、秋田の次の寄港地が小樽であれば、今度は秋田を離れる時に小樽の PR を行うなど、日本海側の寄港地同士が連携し、お互いに観光客が楽しめるようにすべきだと思う。

スポーツ関係では、オリンピック・パラリンピックの事前合宿あるいは今年度はラグビーのワールドカップの事前合宿があるが、それをきっかけに自分たちの町を知ってもらう、秋田県を知ってもらうなどの重層的な取り組みが必要ではないか。秋田市の例では、ラグビーのワールドカップの事前合宿地の交流の中で、昨年は、中学生のラグビーチームがフィジーから来県し試合を行い、今年は秋田市のラグビーチームの子供達がフィジーに行く予定となっている。子供たちの交流から始まり、観光や物流・商流まで、無理のない範囲で発展させていくことが必要である。

最後に、台湾との定期チャーター便について、遠東航空が就航しているが、将来的に定期便化することにより、遠東航空が就航している都市とのネットワークが広がる可能性があり、空のネットワークを広げる取組については、県を挙げて取り組んでいただきたい。

※佐野委員退席

● 渡邊部会長

先ほどの佐野委員のお話を伺って感じたことだが、秋田県は、県も市町村も単独で頑張ろうという気概が強く、他と連携すれば効果が増すと感じることもある。横や遠隔地域との繋がりも含めて、取り組んでほしい。

● 関口委員

インバウンド誘客について、2016年に国の交付金などを活用して、数千万規模の予算でタイからの誘客事業を実施したが、その結果、タイの観光客数は微増だったと記憶している。予算を投下して現地に赴いて PR をしても、結局、直接的な効果として現れなかった。日本は、タイの友好国として需要が高く、首都圏や京都までは来ているが、その次のステップとして地方に来るための取組が十分ではない。

特に、パーソナルツアー（個人旅行）の場合は、各県や各市町村がそれぞれに情報発信している現在のやり方が、外国人には分かりにくい。東北への旅行は代金が高額になることから、秋田を含め、青森県や山形県も周遊したいと考えるのが自然だが、移動時間など現地情報も不足している。その結果、何だかわりにくく、不便そうに思えるので、東北に行くことはやめようとなってしまうのではないか。

それからペイメントの問題がある。東北観光推進機構の取組として、東北のどこでも会計ができる共通の決済方法や周遊ルートの構築、乗り放題パス等の二次アクセス対策など、単純でわかりやすい、特別な取組をもっと踏み込んでやる必要がある。それに対しては、法律の問題など多々あると思うが、それを解決しなければ、様々な施策を行っても成果が出ずに終わることになる。

● 渡邊部会長

関口委員からはインバウンドのお話があったが、県として対象としているインバウンドのターゲットはどこなのかをお聞かせ願いたい。

それから、今のお話にもあったが、外国から来る方の中で秋田だけピンポイントで来る人は本当に少ないと思う。おそらく周遊で来ると思うが、何を楽しみに周遊しているのか、またどのような取り組みを行っているのかをお聞かせください。東北観光推進機構や国も広域連携の取組を行っていると思うが、その点についても教えてほしい。

三つ目として、総合政策審議会の本会議でも話があった決済についても、現在の取組状況をお聞かせ願いたい。

□ 成田観光振興課長

ターゲットについては、台湾・中国（香港を含む）・韓国・タイの4地域を重点市場と定め、プロモーション等を行っている。関口委員のお話にあったタイについては、通常のプロモーションの場合、現地の旅行会社に対して秋田のPRを実施し、できるだけ秋田のことを知っていただいた上で、旅行商品に組み込んでいただくことを目標に取り組んでいる。

秋田までのルートについては、東北観光推進機構が主体となって実施している色々なプロモーションの成果もあり、今年11月にタイと仙台の定期便が復活する。タイ航空は、機材が大きく280人乗りであるため、インバンド・アウトバンドの両方の需要確保が課題であるが、宮城県や周辺自治体の支援等もあり実現した。もちろん定期便の利用者は、仙台市や宮城県だけではなく他県も周遊するので、財政的な支援は別として、我々も受け入れるための準備は進めていく。

本県におけるタイ人の年間の宿泊者数は約4,000人泊であるが、乳頭温泉郷や農家民宿に、旅行会社を通さず、直接申し込みがある。来ている方は旅慣れた方で、宿泊施設がトリップアドバイザー等で「クレジットカードが使えない」などと明記した上で予約が入っており、マナーも含めて問題がないようだ。

プロモーションについては、市町村単独でタイに行っているという情報はなく、最近

では年に1度、知事と県内の首長が合同でセールスを行っており、それらも含めて市町村と連携をしていく。

決済については、導入にあたって何がネックなのか確認したところ、手数料であった。QRコード決済では3%程度であるが、やはり現金でもらえるものの中から3%の手数料を取られるという意識が事業者にはあり、そのあたりは国が消費増税にあわせてインセンティブ制度を検討しているので、商工会議所や商工会等を通じて、最新の情報提供を行うための研修会等を企画したい。

● 関口委員

農家民宿は部屋数も少なく、地域への経済効果は限られている。例えば、現地の旅行会社に対して、数泊は、乳頭温泉郷等のある程度部屋数の多い宿泊施設で、日本本来のおもてなしを体験し、その後の宿泊は、一般市民の生活そのものを体験できる農家民宿への宿泊を提案することで、外国人の宿泊者の増加に繋がるのではないかと。国際教養大学のタイに特化した研究の中で、日本の田舎ではどのような生活をしているのか、その風土や文化に触れて帰りたいという欲求があることが記載されている。農家民宿だから農林水産部ということではなく、観光文化スポーツ部でも農家民宿に対して助言するなど、両部が連携して実施していくべきである。

● 渡邊部会長

国でも、農林水産省の事業で食育も含めた農業体験が事業化されており、広い意味では観光だと思うので、是非その辺も踏まえて考えてほしい。

● 日野委員

インバウンドで本県を訪れた方の移動方法はレンタカーか。

● 関口委員

ほとんどが個人旅行者で、インターネットを利用して予約している。公共交通機関での移動はかなり難しいので、レンタカーの利用が多い。

● 日野委員

個人的には、外国でレンタカーを借りて運転することは、ハンドルの位置や交通ルールも異なるため、ハードルが高いところがある。やはり公共交通機関をどうしていくか、難しい問題ではあるが、考える必要がある。

ペイメントについても、県内の公共交通機関はICカードが普及しておらず、JR東日本でさえ利用することができない状況の中で、それを普及させれば、外国人の決済環境が、幾分解消されると思う。

また、道路の案内表示について、同じものを指しているが、それぞれの案内板の表記（単語等）が異なるため、勘違いをするケースが発生する。

公共交通に関して、バス路線が廃止になった後の代替運行等は行政単位で行うが、

住民の立場では、行政の境界は全く関係ない。最近、五城目町や大潟村が実施している広域での取組をさらに拡大していくべきと考える。

● 渡邊部会長

日野委員の話を受けて、交通関係の取組についてご説明願いたい。

□ 岡部交通政策課長

インバウンドにおいて、公共交通機関による周遊が難しいことはご指摘のとおりである。バス路線も赤字路線が多い中での減便や、デマンド交通のように予約制の乗車方式を採用するなど、どうにか生活の足を守っている状況である。

また、公共交通とインバウンドの接点が見受けられるのは、ジャパンレールパスを利用して、新幹線沿線で本県に入り、角館等から秋田内陸線に乗り換えるケースのほか、秋田や角館、田沢湖などの新幹線沿線でも個人旅行者による移動が見られるが、全体から見ると限定的な乗り方になっている。

また、内陸線は4ヶ国語で社内放送を行っており、これは新幹線より言語数が多く、県内でも稀な乗り物であるが、一部の事例に止まっている状況である。

● 渡邊部会長

ジャパンレールパスは、全国的に利用率が高まっており、利用者が多いところをお勧めコースとしてプロモーションを実施することも検討してみてもどうか。

食分野について気になったのが、先ほど平成30年度の取り組みの中で、台湾やパリへの輸出支援が出ていたが、これはなぜ台湾とパリなのか教えてほしい。

□ 大友秋田うまいもの販売課長

パリについては、先方に売り込む県が割と少ないということと、食の都パリと言われるほど食では先進的な国であることから、ワインが有名なところに取って日本酒で勝負するという事で挑戦した。今現在、徐々にではあるが蔵元数社が定期的に三ツ星レストランなどに納品を始めており、今年度は先方のレストランの発信力のあるシェフや雑誌の記者を招いて、蔵元の紹介や売り込みを実施する予定である。

台湾については、もともとかなり長い期間にわたり取組を行っているが、ロイヤルホスト等のレストランを持つ現地のテコグループ等の業務系の企業にアプローチを仕掛けている。これまでは百貨店が中心であったが、各県が集中して農産物から食品までセールスを行い、飽和状態になっている。次に狙い目とするのが業務用で、そこをターゲットにして昨年度から本格的に取り組んでいる。

● 渡邊部会長

台湾は確か食の輸入規制が少し緩和され、何より親日であり、日本の食はかなり台湾では普及していると感じる。また、食というのはブームがかなりあるが、現在、東京を中心に9店舗程の飲食店を営業しており、4月から臨時店舗でタピオカミルクテ

イーソフトを販売している。タピオカはものすごくブームで、4月から8月までの限定店舗でアルバイトを募集したところ、タピオカのお店で働きたいということで、2週間で370人の応募があった。食というのは流れがあって、メディアに翻弄されるが、それほど長くは続かない。定番としてやるものもあれば、ブームとして差し込んでいくものもあり、何よりそれで人が動くので、ツアー等を絡めることも考えるべきである。

また、食を通じて日本の文化をパリの人に知ってもらい、そういう人に日本に来てもらう、または、来てもらうルートをどう作るのかが大事になる。パリは、目利きが厳しい場所でもあるので、そういう人たちが見るようなメディアを探してくるほか、そういうターゲットを連れてきてくれそうな旅行会社を捕まえにいく商談会を見つけて、アプローチしていくのがいいのではないかな。是非とも、食の輸出部門と誘客部門がうまく連動してやってほしい。

● 日野委員

食の関係でいうと、私の地元が北海道なので「食べ物が美味しくていいよね」とよく言われるが、秋田も北海道と比べてそんなに見劣りするものではない。地元の方は、もっと自信を持って、自分たちには美味しく、良いものがあることを主張してもいいのではないかな。地元の人が自信持って美味しいと言わないものは、外から来た人も食べないし、自信がなく出されたものを食べようという気持ちにはなかなかならないと思う。

また、ゲームやアニメを目的に旅先として選択することは、確かによく聞く話ではあるが、訴求することは、なかなか難しい気がする。多分、行政から仕掛けてもうまくいかず、そういう人たちに見つけてもらえるような情報を発信していくことが大事だと思う。そういう人たちに興味を抱かせ、これを題材にアニメやゲームを作りたいと思わせれば、無責任な言い方であるが、うまくいけばこちらも恩恵があるのではないかな。難しいところもあるが、そういうことを続けることにより、この先何か動きが出てくる可能性がある。

● 渡邊部会長

文化の発信は、若者から始まり、そういう若者たちが情報を発信するアプリ等の手段もたくさん開発されている。そういう人たちに秋田についてバズらせるネタを入れてもらうことも大事だと思う。

先日、山形に行った時に、高速道路の整備がかなり進んでいるように感じ、もうすぐ開通するのかと気になった。例えば、横堀道路や真室川雄勝道路が開通すると、周遊コースの作り方が変ることになる。実際、これが実現するのはいつ頃になるのか、教えてほしい。

□ 佐藤道路課長

横堀道路は27年度、真室川雄勝道路が29年度、南側で最後に残っていた金山道路

は平成 30 年度に事業化された。一般的に、事業化してから 10 年とよく言われるが、用地買収も終わっておらず、今の段階では開通時期ははっきりしていない。

● 渡邊部会長

湯沢方面に行くと、感覚的にかなり山形ナンバーが増えている気がするし、県南に行くと山形と秋田の繋がりが強くなってきた感じがする。そうなれば、文化が流入するルートも変わると思う。県北も然りで、青森県等との繋がりができれば、函館から青森を通して大館の方に抜ける周遊コースがもっと重要になるかもしれない。インバウンドで来るお客さんの楽しみ方や見せ方も変わってくると思う。

最近、高齢者のドライバーの免許の返納が問題になっている。私の父も免許を返納したが、説得するのが大変であった。神奈川県に住んでいるので生活の足については問題ないが、プライドがあってなかなか返納に応じてくれない。秋田の場合は生活のために運転免許が必要で、さらに課題は大きいと思う。様々な取り組みのほか、公共交通機関の自動運転化の実証実験等も行っていると思うが、この問題は、おそらくコミュニティで解消するしかないと思う。多分、今年はそのあたりも戦略の中に書き込み、提言の中にまとめていくことになる。

総合政策審議会の本会議の中では、AI や IoT といったキーワードがたくさん出ている。今後、具現化して多くの便利なツールが出てくると、人の動き方や人の役割が変わってくる。また、産業構造にも大きく影響すると思うので、今後の部会の中でもいろいろと検討していければと考えている。

● 関口委員

まんがについて、留学生から話を聞くと、日本人の道德感や食、考え方まで、まんがを通して知る、所謂、バイブルになっている。こうした中、増田まんが美術館がリモデルされた。国際教養大学の留学生等に対して、まんがに特化した施設が秋田にあることをアプローチし、他の施設等を含め、帰国後も継続して秋田の魅力を伝えるキーマンとして活動できる施策を検討してほしい。実際に、現地の方には旅行会社から話を聞くより、留学生の方が信憑性があり、よく話を聞いてもらえる傾向にある。

クレジットカード決済については、弊社の場合、10 年前は利用者の約 10%の利用率であった。今年の連休は、50%から少ない時でも 30%はクレジットカード決済で、手元に現金を持たないことが普通になり、今後、ますます増えてくる実感がある。ただ、会計の混雑時は、処理までの時間が長いクレジットカード決済よりは、速やかに完結する電子マネー等の方が助かる。電子マネー等の推進は、人手不足の緩和の一役を担う一面もある。

食に関しては、とんぶりやジュンサイは、高齢化により担い手不足になっている。「とんぶりの納品は、連休中 1 回で終わります」や「次の納品がいつになるか分からない」ということを言われている現状がある。このような状況で、果たして秋田名物と言えるのか問いたくなる。また、いぶりがっこは、大変有名であるが、次のステップに進む必要がある。噛み応えが“パリパリ”か“サクサク”か、特に食感について

お客さんからよく聞かれのので、それを明文化して表示すべきと考える。その際は、総合食品研究センターや農林水産部と連携してほしい。

● **日野委員**

高齢者の自動車免許の返納は、非常に大事な問題だと思う。免許返納は致し方ないと考えている人が多い反面、「まあなんとかなる」や「車がないと困る」などから運転を続けている話をよく聞く。その代替措置として、地域コミュニティ等で誰かが乗せる方法があるが、それも運転できる人がおらず、難しくなっているようだ。自動運転の技術開発はあるが、実用化がいつになるのかははっきりしない。何か対策を講じていかなければ、いずれ地域交通を維持していくことが難しくなる。

● **渡邊部会長**

増田まんが美術館について、今の段階では、恐らくまんがの美術館や博物館だと思うが、人が行動に移し、何度もリピートするためには、まんがで描かれている世界観まで入り込ませる必要がある。映画やテレビのロケで、女優さんが立った場所に立ちたい、食べたものを食べたいなど、なんらかの工夫をして世界観に入るように演出しなければ、実際の誘客には繋がらない。

(4) **「その他」について**

最後、「議題(4)その他」として何かあるか。特になければ、議事としてはこれで終了する。

□ **事務局**

本日は長時間にわたるご審議に感謝申し上げます。

以上をもって、「令和元年度 秋田県総合政策審議会 第1回 人・もの交流拡大部会」を閉会する。

以上